

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：中山 迅  
事務局：中西印刷株式会社 学会部内  
URL：<http://www.jsse.jp>

.....  
2016.6.15  
NO.228  
.....

# 科学教育研究レター



## 目 次

■ 年会 ..... 2	■ 若手活性化委員会だより ..... 20
第40回年会開催案内（第5次）	第40回年会若手ワークショップ開催案内
■ 研究会・支部だより ..... 14	若手ワークショップボランティア募集
2015年度研究会開催のお知らせ	スタートパーティ～若手研究者の集い
■ 国際交流委員会だより ..... 15	■ 編集委員会だより ..... 24
国際ランチョン・ミーティング開催の お知らせ	論文投稿・査読システムの移行に伴う アカウントの設定のお願い
国際学会開催情報	特集のお知らせ
国際学会参加報告（33）	「科学教育研究」編集状況報告
	■ 広報委員会からのお知らせ ..... 28

第 40 回年会 開催案内（第 5 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 年会テーマ：科学教育における対話から学びの本質にせまる
2. 主催：日本科学教育学会
3. 後援：大分県教育委員会・大分市教育委員会
4. 日程：2016 年 8 月 19 日（金）～21 日（日）（3 日間）

※プログラム編成の関係で、若干時間が変更になる場合があります。

※レター発行後も年会 Web サイトを更新しますので、最新情報をご確認下さい。



## 日本科学教育学会第 40 回年会(大分)タイムテーブル

	1 日目 8 月 19 日(金)	2 日目 8 月 20 日(土)	3 日目 8 月 21 日(日)
9:30	受付 9:30~10:30	受付 9:30~10:00	受付 9:30~10:00
10:00		一般研究発表・課題研究発表 10:00~12:00 (2 時間)	一般研究発表・課題研究発表 10:00~12:00 (2 時間)
10:30			
11:00			
11:30	一般研究発表・課題研究発表 10:30~12:30 (2 時間)		
12:00	昼食・各種委員会 12:30~14:00 (1 時間 30 分)	昼食・各種委員会 12:00~13:30 (1 時間 30 分)	昼食・理事会(改選後)/ 国際交流委員会企画 (ランチョンミーティング) 12:00~13:30 (1 時間 30 分)
12:30			
13:00			
13:30		総会・表彰 13:30~15:00 (1 時間 30 分) 【大会議室】	一般研究発表・課題研究発表 13:30~15:30 (2 時間)
14:00	一般研究発表 課題研究発表 14:00~16:00 (2 時間)	休憩(5 分)	
14:30		招待講演「科学教育研究セミナー」 15:05~16:05(1 時間) 【大会議室】	
15:00	休憩(15 分)	休憩(30 分)	休憩(5 分)
15:30		JrSRM 表彰式 16:30~【小ホール】	年会企画委員会・実行委員会 合同会議 15:35~16:35(1 時間) 【2F 講義室】
16:00		休憩(5 分)	
16:30	若手の会 ワークショップ 16:15~18:45 2 時間 30 分 【大会議室】	理事会 (改選前) 17:15~18:45 (1 時間 30 分) 【408 会議室】	シンポジウム 16:15~18:15 (2 時間) 【大会議室】
17:00		休憩(5 分)	
17:30			休憩(15 分)
18:00		顧問・理事・ 支部長・代議員 合同会議 18:50~20:50 (2 時間) 【409 会議室】	懇親会 18:30~20:30 (2 時間) 【小ホール】
18:30	移動	休憩(5 分)	
19:00			
19:30	若手の会 懇親会 19:30~		
20:00			

5. 会場：ホルトホール大分 (<http://www.horutohall-oita.jp/>)

〒870-0839 大分県大分市金池南一丁目 5 番 1 号

会場へのアクセスはホルトホール大分の Web ページをご覧ください。周辺駐車場案内も掲載されて

います。

## 6. 内容：次の内容を予定しています

### (1) シンポジウム

テーマ『グローバル化する社会における科学教育を問う』

趣旨：グローバル化や情報化の進んだ変化の激しい社会の中で生き、創造的に関わっていく力を育てるために、科学教育にはどのような取り組みが求められるか。本シンポジウムでは、グローバル化する社会における科学教育の動向、現状や成果、課題について、科学教育の専門家から、ご自身の研究を踏まえながら提案をしていただきます。様々な専門分野の研究者が集まる本学会の特色を生かし、年会テーマ「科学教育における対話から学びの本質にせまる」にアプローチをしていきます。

- ・コーディネータ：寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）
- ・登壇者：猿田祐嗣（國學院大學）、小山正孝（広島大学）、大谷 忠（東京学芸大学）
- ・指定討論者：大高泉（筑波大学）

### (2) 科学教育研究セミナー（招待講演）

2015 年度学会賞「学術賞」受賞、稲垣成哲先生（神戸大学）。

業績：ICT を利用した教育・学習支援に関する学際的プロジェクト型研究の開拓

### (3) 課題研究発表

#### ① 初等・中等教育における統計的思考力を育成する実践研究と統計のカリキュラム改革に向けて(4)

オーガナイザー： 裕元新一郎（静岡大学学術院教育学領域）

概要：日本の算数・数学科における統計カリキュラムは、国際的な通用性の観点からみるとさらに検討の余地があり、日本の児童・生徒の実態を踏まえたよりよい統計のカリキュラムを構築していく必要がある。そこで、本課題研究では、昨年度に引き続き、授業分析からみた児童・生徒の統計的思考力の実態と国内外のカリキュラム等の動向について検討し、平成 30 年前後に告示される次の学習指導要領改訂を視野に入れつつ、将来に向けた統計（確率）のカリキュラムのあり方について議論する。

<登壇者>

中越 進（三島市立錦田小学校）

石綿健一郎（世田谷区立用賀中学校）

富田真永（静岡県立川根高等学校）

裕元新一郎（静岡大学学術院教育学領域）

#### ② 科学の考え方や見方に注目したアクティブラーニング

オーガナイザー：加納 圭（滋賀大学大学院教育学研究科／京都大学 iCeMS）

概要： PISA 調査では、科学的知識は「科学の知識」と「科学についての知識」の2つからなるとされている。日本でも双方の習得が目指されているが、現状では前者に偏りがある。本課題研究では特に後者に焦点をあてる。具体的には、(1)NHK E テレ「考えるカラス～科学の考え方～」や「カガク

ノミカタ」連動で科学の考え方や見方を実践、(2) iPS 細胞などの幹細胞をテーマに科学者と議論、(3) 生物多様性をテーマに答えのない課題へ挑戦するアクティブラーニング型教育プログラムを取り上げる。

<登壇者>

竹内慎一 (NHK エデュケーショナル)

塩瀬隆之 (京都大学総合博物館)

加納 圭 (滋賀大学大学院教育学研究科/京都大学 iCeMS)

水町衣里 (大阪大学 CSCD/京都大学 iCeMS)

磯部洋明 (京都大学大学院総合生存学館)

### ③ 中学校数学科における課題探究としての説明・証明の実現 IV

オーガナイザー：宮崎樹夫 (信州大学)

概要：資質・能力として課題探究力の育成が求められている。本研究の目的は、中学校数学科において課題探究として説明・証明を学ぶためのカリキュラム開発である。今回は、領域「資料の活用」におけるカリキュラム開発のための枠組みと、それに基づく「内容-活動対応表」について説明するとともに、「内容-活動対応表」に基づく授業の開発/実践に関する成果と課題を報告する。また、領域「数と式」及び「図形」において開発されたカリキュラムと内容-活動対応表」に基づく授業の開発/実践に関する成果と課題を報告する。その上で、残された課題及びその解決について指定討論者の見解に基づいて協議する。

<登壇者>

辻山洋介 (千葉大学)

高橋伸茂 (豊橋市立羽田中学校)

佐々祐之 (北海道教育大学札幌校)

永田潤一郎 (文教大学)

<指定討論者>

溝口達也 (鳥取大学)

### ④ 科学系博物館における情報アクセシビリティの取り組み

オーガナイザー：生田目美紀 (筑波技術大学)、小川義和 (国立科学博物館)

概要：本研究の目的は、科学系博物館等における展示支援及び学習支援の情報アクセシビリティの具体的な取り組みを調査し、その指針と評価手法の方針を打ち出すことである。平成 28 年 4 月 1 日から施行される「障害者差別解消法」では、障害に対する合理的配慮をしないことが禁止される。科学への憧れや理解増進を促す活動は、先進的なテクノロジーの利用に限らず、ユニバーサルデザインによる考え方が浸透し、極めて充実したものとなってきている。本研究では先進的な国内外の取り組みを調査し、博物館等の科学コミュニケーションの現場において取り組み可能な、障害に対する合理的配慮を明らかにするとともに、その克服・改善のためのデザイン指針を策定することを通して、科学教

育の革新に資することを目的とする。

<登壇者>

河野純大（筑波技術大学）

岩崎誠司、佐々木とき子（国立科学博物館）

水島未記（北海道博物館）

生田目美紀（筑波技術大学）

<指定討論者>

毛利勝廣（名古屋市科学館）

⑤ モデル・モデリングに関わる学習指導の新展開に向けて

オーガナイザー：川上 貴（西九州大学）、松寄昭雄（埼玉大学）

概要：昨年の課題研究では、モデリングを算数・数学科のカリキュラムや日々の学習指導に位置づけていくために、広い視点からモデリングの学習指導の在り方について再考していく必要性が指摘された。新学習指導要領に向けた議論が活発している中、今年の課題研究では、モデリングを重視した単元開発、理科との連携、統計との関連性など、モデル・モデリングに関わる学習指導の新たな方向性について議論していきたい。

<登壇者>

川上 貴（西九州大学）

伊藤伸也（金沢大学）

渡辺美智子（慶應義塾大学）

池田敏和（横浜国立大学）

⑥ 科学・技術にかかわる教育の連携・協働—材料・物質に関する教育内容と教育課程の視点から—

オーガナイザー：谷田親彦（広島大学）、大谷 忠（東京学芸大学）、磯部征尊（愛知教育大学）

概要：本課題研究では、2010年から2014年にかけての課題研究の議論を踏まえ、科学・技術に係る技術教育と理数教育の連携・協働の在り方についてコンテンツやレディネスの側面から発展させる。本年度は、中学校技術科における「A 材料と加工に関する技術」で扱われる「材料（素材）」に焦点を当て、技術的、科学的な観点からコンテンツの在り方を検討し、相互の関連性と異質性について議論を深めたい。

<登壇者>

大谷 忠（東京学芸大学）

網本貴一（広島大学）

三好美織（広島大学）

磯部征尊（愛知教育大学）

<指定討論者>

人見久城（宇都宮大学）

二宮裕之（埼玉大学）

⑦ これからの統計教育の方向性（10）：統計的探究の指導と評価

オーガナイザー：小口祐一（茨城大学）

概要：中等数学教育では、生徒自身が統計的探究を遂行できる統計的思考力の育成が重視されている。中等数学教育において、統計的探究プロセスにおける **Problem・Plan・Data・Analysis・Conclusion** の各段階をどのように指導・評価するとよいかについての提案と議論を行う。

<登壇者>

小口祐一（茨城大学）

青山和裕（愛知教育大学）

西仲則博（近畿大学）

藤井良宜（宮崎大学）

小野浩紀（知多市立旭東小学校）

⑧ 中等教育化学における文脈を基盤とした学習プログラムの構築－基本概念に注目して－

オーガナイザー：寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）

概要：中等教育化学における文脈を基盤とした学習プログラムの構築を構築するために、ドイツなどの先進事例を参考にして化学、教育課程、比較教育学、学習科学、理科教育学等の視点から学融合により、日本における中等教育レベルにおける化学の基本概念を検討する。

<登壇者>

寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）

今井 泉（東邦大学）

後藤頭一（国立教育政策研究所）

吉岡亮衛（国立教育政策研究所）

遠藤優介（愛知教育大学）

⑨ 数学教育、理科教育、技術科教育、情報教育からみたモデリング研究への期待（3）

オーガナイザー：松寄昭雄（埼玉大学）、川上 貴（西九州大学）

概要：モデリング研究には学際的な側面があり、数学的モデリングにおいても、数学科と他教科との関連を意識していく必要がある。一昨年の埼玉大会と昨年の山形大会に引き続き、モデリング研究にも造詣が深い、「数学教育」「理科教育」「技術科教育」「情報教育」の研究者の方々にパネラーとして登壇頂き、モデリング研究に対する期待と今後の展望について、パネルディスカッションをおこなう。

<登壇者>

松寄昭雄（埼玉大学）

内ノ倉真吾（鹿児島大学）

上野耕史（国立教育政策研究所）

松浦昭洋（東京電機大学）

<指定討論者>

佐伯昭彦（鳴門教育大学）

⑩ 科学系博物館等における効果的な展示支援デザイン

オーガナイザー：稲垣成哲（神戸大学）、楠 房子（多摩美術大学）

概要：科学系博物館や動物園等の社会教育施設における科学教育の重要性は当然のこととして意識されてきている。それは、いわゆるサイエンス・コミュニケーションの質を高める課題であり、それぞれ多様な努力がなされている。しかしながら、その対話的な過程を踏まえた効果的な展示支援手法の開発はさほどなされていない。本課題研究では、科学教育に固有な方法論において、どのような展示支援手法が考えられるのか、またその実際はどうなるのか等の諸課題を議論したい。

<登壇者>

玉木晴也（東京理科大学）

田中 維（神戸大学）

江草遼平（神戸大学）

三宅志穂（神戸女学院大学）

<指定討論者>

真鍋 真（国立科学博物館）

⑪ 「理数教育の充実」にむけて、理科と数学の関連はどうあるべきか？ III

オーガナイザー：安藤秀俊（北海道教育大学旭川校）

概要：中教審の答申や学習指導要領では、科学技術の土台である「理数教育の充実」が求められ、次期学習指導要領では、高等学校において「数理探求」という選択科目の導入が示されている。しかしながら、わが国において理科と数学という2教科間の関連性についての議論は盛んではない。本セッションでは、一昨年、昨年に引き続き、理数教育の充実という観点から議論を深める。

<登壇者>

安藤秀俊（北海道教育大学旭川校）

小原美枝（神奈川県教員委員会）

高阪将人（国際協力機構）

久保良宏（北海道教育大学旭川校）

太刀川祥平（茨城キリスト教学園中・高校）

金児正史（鳴門教育大学）

⑫ 数学教育におけるテクノロジー活用の将来像の考察 7

オーガナイザー：飯島康之（愛知教育大学）



概要：本課題研究は、昨年度まで6年間続いた課題研究を引き継ぎ、テクノロジーの数学教育における利用の可能性について追究する。世界的にみると、日本でのような、電子黒板での教科書の拡大提示や、学習者の考えのプロジェクタへの提示による協調学習の推進にとどまらず、ソフトウェアを活用したより幅広い教材提示や探求活動が行われている。本研究では、新たな活用事例や有効な利用法の確立にむけた取り組みを提案する。

<登壇者>

飯島康之（愛知教育大学）

大西俊弘（龍谷大学）

渡邊 信（生涯学習数学研究所）

濱口直樹（長野高専）

金子真隆（東邦大学）

牧下英世（芝浦工業大学）

⑬ 日本におけるSTEM教育研究の在り方と展望—アメリカのSTEM教育改革の理論と実践を踏まえて—

オーガナイザー：熊野善介（静岡大学創造科学技術大学院）

概要：米国を中心として世界各国がSTEM教育の名のもとに科学教育改革を進めているが、それらの中から日本における科学教育改革への示唆を抽出し、実証的な研究をもとに何が言えるのか。この課題研究では、日本国内で既に研究を進めてきた機関として、静岡大学、山梨学院大学附属小学校(文部科学省研究開発学校)など、実践を進める教員からの発表も含め、現状における実態把握、今後の見通しを検討する。

<登壇者>

熊野善介（静岡大学創造科学技術大学院）

齊藤智樹（静岡大学創造科学技術大学院）

奥村仁一（静岡県立桜が丘高等学校）

小林祐一（山梨学院大学附属小学校）

<指定討論者>

興 直孝（静岡県教育委員会）

⑭ 高大接続に資するタブレットを用いた評価問題の開発—動的図形や映像を用いた問題—

オーガナイザー：安野史子（国立教育政策研究所）

概要：高大接続改革において、CBTの導入に向けての議論がなされているが、CBTにおける特性を生かした教科・科目ベースの問題がどのようなべきか、またそれによってどのようなことが評価できるのかについての考察的実証的研究はほとんどなされていない。そこで本研究課題では、数学及び化学について、動的図形や映像を用いた問題を試作し、それを用いた予備調査を行ったところまでの報告を行う。

#### <登壇者>

安野史子（国立教育政策研究所）  
浪川幸彦（椛山女学園大学）  
山下卓弥（富山県立富山北部高等学校）  
柳澤秀樹（駒場東邦中学校高等学校）  
松原静郎（桐蔭横浜大学）

#### (4) 一般研究発表

例年通り、1 件の発表の持ち時間は 20 分（発表 15 分、質疑 5 分）とします。

一般研究発表の登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能な一般研究発表の件数は 1 件です。一般研究発表の登壇者は、課題研究発表、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができます。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7 月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。

#### (5) インタラクティブセッション

例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場を設定します。

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければなりません。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は 1 件です。インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究発表、一般研究発表、その他の企画にも登壇することができます。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7 月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味します。

※インタラクティブセッション発表上の注意

- ・パネルのサイズは幅 120cm、高さ 180 cm です。ポスターはこの大きさに入るサイズでお願いします。
- ・インタラクティブセッションの発表日時は 19 日（金）14:00～16:00 です。準備作業は 19 日（金）9:30～12:30 の間に行ってください。16:00 の終了時から 16:30 までに撤収を完了してください。
- ・電源（事前申し込みのあった方のみ）、貼付用のピン、セロテープは用意します。
- ・インターネット利用に関しては、各発表者で対応をお願いします（発表会場はネットを利用できる環境を提供できません）。
- ・発表時間中、参会者の質問等に応じる機会を持つようにしてください。

#### (6) ジュニア・サイエンス・リサーチ・ミーティング（JrSRM）

第 40 回年会の特別企画として、中学生・高校生を対象とし、学校内のグループ（1 名で行う個人の研究を含む）で行っている科学研究（数学、理科、技術、総合的な学習、その他課外活動などを含む）の発表会を開催します。研究への着想やプロセスに主眼を置いて評価を行い、優れた研究については表彰（最優秀賞、優秀賞、奨励賞を授与）します。発表形式はポスター発表です。詳細は Web サイトを

ご覧ください。 <http://www.jsse.jp/jsseam/modules/note2/index.php?id=55>

発表申込は締め切りしましたが、ご希望がある場合には早急に、担当者まで E-mail でご相談ください。  
担当者：大分大学教育学部 島田和典 (E-mail : [shimada-kazunori@mark.oita-u.ac.jp](mailto:shimada-kazunori@mark.oita-u.ac.jp))

#### (7) その他の企画

- ・総会、表彰：8月20日（土）13:30～15:00
- ・懇親会：8月20日（土）18:30～20:30
- ・若手の会（若手活性化委員会）ワークショップ：8月19日（金）16:15～18:45
- ・国際交流委員会企画 国際ランチョンミーティング：8月21日（日）12:00～13:30

※若手の会ワークショップの詳細は、本レターの「若手活性化委員会だより」をご覧ください。また、

最新情報は Facebook ページにて続々公開中です。 <https://www.facebook.com/jssewakate/>

※国際ランチョンミーティングの詳細は、本レターの「国際交流委員会だより」をご覧ください。

### 7. 論文集の電子化

日本科学教育学会の年会論文集は電子化されました。

・年会当日は、学会会場の見取り図、プログラム、論文要旨などが掲載された「年会論文要旨集」を紙媒体で配布します。年会論文要旨集には個々の論文は掲載されません。

・「年会論文集」については、電子ファイルで提供します。年会当日の受付にて、論文集の電子ファイルを格納した USB メモリを参加者に配付します。

・論文集の暫定版 PDF ファイルを事前（概ね年会の数日前）に、参加費の入金が完了した事前参加申込者にのみ、Web サイトで公開する予定にしています。暫定版 PDF の公開は、電子メールで通知いたします。このため、発表者は発表申込みだけでなく、事前参加申込および参加費の入金を忘れずをお願いいたします。特に、連名発表者が年会に参加される場合、事前ダウンロードには事前参加申込と参加費の入金が必要となりますので、ご周知願います。

### 8. 懇親会

懇親会のお料理は、創業 70 余年「日本料理 うを清」にお願いしております。是非、ご参加ください。懇親会は原則として、年会 Web サイトからの事前申込みです。余裕がある場合には、当日申込みも受け付けますが、定員になり次第、締め切らせていただきますことをご了承下さい。

- ・日時：8月20日（土）18:30～20:30
- ・会場：ホルトホール大分 小ホール
- ・懇親会費：参加費及び懇親会費等に記載しております表をご参照下さい。
- ・申込先：参加申込みとあわせて、年会 Web サイトの参加申込み用リンクからお申し込み下さい。
- ・払込方法：参加費と合わせて送金して下さい。

※大学名・会社名で送金される場合は、個人が特定されませんので、年会実行委員会事務局までご一報ください。

## 9. 参加費

参加費及び懇親会費等は、表の通りです。

参加費	事前 (7月15日まで)	当日
一般会員	¥5,000	¥6,000
学生会員	¥3,000	¥4,000
一般非会員	¥7,000	¥8,000
学生非会員	¥5,000	¥6,000
論文集 USB 追加購入	事前 (7月15日まで)	当日
種別関係なく	¥2,500	
論文要旨集 (冊子体) 追加購入		当日のみ
種別関係なく		¥1,000
懇親会費	事前 (7月15日まで)	当日
一般会員	¥6,000	¥7,000
学生会員	¥4,000	¥6,000
一般非会員	¥7,000	¥7,000
学生非会員	¥6,000	¥6,000

※ 参加費には、年会論文要旨集 (冊子体) 1冊、年会論文集 (USB メモリ) 1個が含まれています。

※ 論文集 USB 追加購入費には年会論文集 (USB メモリ) 1個が含まれています。年会論文要旨集 (冊子体) は含まれていません。

※ 論文要旨集 (冊子体) は当日のみ追加購入していただけます。冊数に限りがありますので、なくなり次第販売を終了します。

## 10. 企業展示

出展をご希望の企業様は、Web サイトから申込書をダウンロードの上、事務局に E-mail でお申し込みください。展示会場・スペース及び出展料は次のとおりです。

会 場：ホルトホール大分 1階ロビー 小ホール前 (予定)

ス ペ ー ス：180cm×180cm (180cm×90cm 相当の机を用意します。)

日 時：2016年8月19日 (金)～8月21日 (日) プログラム進行時間中

(搬入は前日 18:00～22:00 も可能です。完全撤収は最終日 16:30 です。)

出 展 料：3万5千円

申 込 締 切：7月8日 (金)

出展料支払期日：7月29日 (金) ※御社の支払規定などに沿って適宜対応させていただきます。

詳細は Web サイトをご覧ください。 <http://www.jsse.jp/jsseam/modules/note2/index.php?id=49>

## 11. 企業広告掲載のお願い

中学生・高校生の研究発表会、ジュニア・サイエンス・リサーチ・ミーティング (JrSRM) では、研

究概要集（冊子体）を発行いたします。本研究概要集に企業様の広告を掲載いただきたく、お願い申し上げます。研究概要集の原稿はグループごとにA4で4～8頁です。

掲載いただける場合には、Web サイトから申込書をダウンロードの上、事務局にE-mailでお申し込みください。

広告掲載料などは、次のとおりです。

掲 載 料：A4 版 1 ページ 1 万円

A4 版 1/2 ページ 5 千円

申 込 み 締 切：7 月 7 日（木）

原 稿 提 出 締 切：7 月 7 日（木）

※申込み締切日と原稿提出締切日は同日となります。

掲載料支払期日：7 月 29 日（金）

※御社の支払規定などに沿って適宜対応させていただきます。

※年会論文要旨集（冊子体）および年会論文集（USB メモリ）への掲載ではございませんので、ご検討にあたっては、十分にご注意願います。

詳細は Web サイトをご覧ください。<http://www.jsse.jp/jsseam/modules/note2/index.php?id=57>

## 12. 事務局（連絡先）

〒870-1192 大分県大分市旦野原 700

大分大学大学院教育学研究科 竹中真希子

E-mail : [tmakiko \[at mark\] oita-u.ac.jp](mailto:tmakiko[at mark]oita-u.ac.jp)

## 13. 年会実行委員会

【委員長】山下 茂（大分大学）、【副委員長】牧野治敏（大分大学）、【実行委員】三次徳二（大分大学）、藤井弘也（大分大学）、市原靖士（大分大学）、島田和典（大分大学）、中原久志（大分大学）

【事務局】竹中真希子（大分大学）

## 14. 年会企画委員会

【委員長】松浦拓也（広島大学）、【副委員長】高藤清美（筑波学院大学）、松寄昭雄（埼玉大学）、【担当理事】日野圭子（宇都宮大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）、【幹事】瀬戸崎典夫（長崎大学）、【企画委員】泉 直志（筑波大学）、大谷 忠（東京学芸大学）、川上 貴（西九州大学）、小泉健輔（高崎健康福祉大学）、鈴木哲也（東京未来大学）、野添 生（宮崎大学）、増田有紀（東京成徳大学）、松元新一郎（静岡大学）、御園真史（島根大学）、三好美織（広島大学）、向 平和（愛媛大学）、谷田親彦（広島大学）、山本智一（兵庫教育大学）

実行委員会の総力を挙げて第 40 回年会を盛り立てていく所存です。多数の皆様のご参加、ご来県を心よりお待ちしております。

第 40 回年会 実行委員長 山下 茂（大分大学）

2015 年度研究会開催のお知らせ

2015 年度研究会の開催に関しては、下記の通りです。なお、案内及びプログラムなどの詳細については、学会ホームページに順次掲載するので、ご覧ください。

(1) 2015 年度第 9 回日本科学教育学会研究会 (東海支部開催)

[テーマ] 科学教育の実践と研究、未来の展望

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2016 年 6 月 25 日 (土) 10:00~16:00 (予定)

[会場] 静岡大学教育学部 B 棟 218 教室

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷836

○交通案内 (<http://www.shizuoka.ac.jp/access/index.html>)

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 参加費は無料です。

会員、非会員にかかわらず、どなたでも参加できます。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 東海支部長 村瀬康一郎 (岐阜大学)

### 国際ランチョン・ミーティング開催のお知らせ

今年も年会 3 日目 8 月 21 日（日）の昼食時間に国際ランチョン・ミーティングを開催致します。この企画は、国際学会参加者や国際学会に興味がある人達が集まり、国際交流の意義やコツについて語り合う企画です。今年は様々な国際学会の情報提供、英語でコミュニケーションをとる練習も行います。8 月 26 日からは東京で国際学会の一つである東アジア科学教育学会も開催されますので、その前の情報交換・練習の場としても活用してください。

学会員の方、そうでない方、学生会員、外国人会員、学会参加者同士の交流を深めたい方など、様々な学会参加者の方々が対象です。国際学会に参加してみたいけれど、なんとなく不安な方、国際学会に参加したことがあり、これからも積極的に参加する予定の方など、国際学会参加経験は問いません。国際学会や国際交流に興味のある方ならどなたでも大歓迎です。国際交流委員会より軽食と飲み物を用意しますので、ぜひお気軽にご参加下さい！

- 日時：年会 3 日目 8 月 21 日（日）12:00～13:30
- 場所：学会会場内（学会通信、年会 Web ページにて発表します）
- 参加費：無料（軽食と飲み物を提供しますが、持ち込みも歓迎します）
- 参加資格：どなたでもご参加頂けます。
- 参加申込：当日会場に直接お越し下さい。
- 企画運営：国際交流委員会、国際ランチョン・ミーティング実行委員会
- 協力：広報委員会、年会企画委員会、年会実行委員会
- お問い合わせ：企画担当・雲財寛（広島大学）

*hiroshi-unzai [at mark] hirosima-u.ac.jp*

### 国際学会開催情報

今後、下記の 12 の国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

- 1) ICASE (The International Council of Association for Science Education)  
2016 -World Science and Technology Education Conference-  
開催地：Antalya, Turkey

期間：2016年11月1日～5日

締切等：2016年7月1日（Early Bird 参加申込期限）

<http://www.icas2016.org/>

※日本科学教育学会は ICASE 加盟団体のため、参加費の割引がある予定です。

2) EASE2016 (2016 International Conference of East-Asian Association for Science Education)

開催地：東京理科大学、東京都新宿区

期間：開催日：2016年8月26日～28日（25日は前日イベントあり）

開催地：東京理科大学 神楽坂キャンパス

締切等：2016年6月30日（Early Bird 参加申込期限）

大会ホームページ：<http://ease2016tokyo.jp/index.html>

お問い合わせ：[ease2016tokyo \[ at mark \] gmail.com](mailto:ease2016tokyo[at mark]gmail.com)（大会本部）

[miku.yoshida \[ at mark \] ind.ku.dk](mailto:miku.yoshida[at mark]ind.ku.dk)（Alumni 企画連絡担当）

※Alumni 企画の申込については大会 Web ページでお知らせします。

（愛媛大学教育学部・隅田 学）

3) The 47th Annual ASERA (Australasian Science Education Research Association) Conference

開催地：Canberra, Australia

期間：2016年6月27日～7月1日

<https://asera.org.au/2016-conference/>

4) ICLS2016 (12th International Conference of the Learning Sciences)

テーマ：Transforming Learning, Empowering Learners

開催地：Singapore

期間：2016年6月24日～6月28日

<https://www.isls.org/icls/2016/>

5) EdMedia2016 (World Conference on Educational Media and Technology)

開催地：Vancouver, BC, Canada

期間：2016年6月27日～30日

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>

6) The IOSTE (International Organization for Science and Technology Education) Symposium 2016

開催地：Braga, Portugal

期間：2016年7月11～16日



<http://www.eventos.ciec-uminho.org/ioste2016/>

7) AECT (Association for Educational Communications and Technology) International Convention 2016

開催地 : Las Vegas, NV, USA

期間 : 2016 年 10 月 17 日～21 日

<http://www.aect.org/events/call/>

8) E-LEARN 2016 - World Conference on E-Learning

開催地 : Washington, DC, USA

期間 : 2016 年 11 月 14 日～16 日

締切等 : 2016 年 6 月 15 日 (プロポーザル投稿期限)

2016 年 10 月 12 日 (Early Bird 参加申込期限)

<https://www.ace.org/conf/elearn/>

9) ICCE (International Conference on Computers in Education) 2016/04/05

開催地 : Mumbai, India

期間 : 2016 年 11 月 28 日～12 月 2 日

<http://www.et.iitb.ac.in/icce2016/>

10) ITEEA2017 (The 79th Annual Conference, International Technology and Engineering Educators Association)

開催地 : Dallas, TX, USA

期間 : 2017 年 3 月 16 日～18 日

締切等 : 2016 年 6 月 30 日 (発表申込締切)

2016 年 10 月 1 日 (STEM Showcase 申込締切)

[http://www.iteea.org/Activities/Conference/ITEEA\\_Conference\\_2017.aspx](http://www.iteea.org/Activities/Conference/ITEEA_Conference_2017.aspx)

11) AERA2017 (American Educational Research Association Annual Meeting)

開催地 : San Antonio, TX, USA

期間 : 2017 年 4 月 27 日～5 月 1 日

締切等 : 2016 年 7 月 22 日 (プロポーザル投稿期限)

<http://www.aera.net/EventsMeetings/AnnualMeeting/2017AnnualMeetingCallforPaperandSessionSubmissions/tabid/16328/Default.aspx>

12) NARST2017 (National Association for Research in Science Teaching) Annual Meeting

開催地：San Antonio, TX, USA

期間：2017年4月22日～4月25日

締切等：TBA（6月下旬にWebサイトでアナウンス予定）

<https://www.narst.org/annualconference/2017conference.cfm>

### 13) CSCL2017 (International Conference of Computer Supported Collaborative Learning)

開催地：Philadelphia, PA

期間：2017年6月20日～22日

締切等：2016年11月1日（プロポーザル投稿締切）

<http://www.isls.org/cscl/2017/>

（専修大学ネットワーク情報学部・望月俊男）

## 国際学会参加報告（33）

### —The 4th International Conference for Science Educators and Teachers—

2016年6月3日から5日にかけてタイのコンケンで開催されたThe 4th International Conference for Science Educators and Teachers(ISET 2016)に参加した。

2012年に設立されたISETは、2013年より毎年国際学会を開催しており今年が4回目の開催でコンケン大学が開催校であった。ISETの構成機関は、タイ国内で理科教育の博士課程を有するコンケン大学、カセサート大学、タクシン大学、シーナカリンウィロート大学と、タイ理科教育学会、タイの教育省のIPST、フィリピンのミンダナオ州立大学である。

ISET2016の参加者は、トータルで300人弱。タイからの参加者が最も多く、タイ以外はフィリピンからが30人程度と最も多かった。学会の発表種別は、20分間の口頭発表と、ポスター発表で、発表件数はそれぞれ口頭76件、ポスター96件であった。タイは理科教育の博士課程の大学院生の人数が多く、短期留学経験者も多いため、現在の研究動向を意識した研究が多いように感じる。また、修士課程の院生も学部生も堂々と英語を使って発表しており、理科教育研究への熱意を感じる学会であった。

日本からは、愛媛大学の隅田学先生と私が招待者として参加したのみであった。隅田先生は、幼年期の教育の重要性と愛媛大学のキッズアカデミアサイエンスの成果について講演し、私はここ3年間のコンケン大学とレッスンスタディの共同研究をしていることもあり、参加者の前で理科の授業をしてみせ隅田先生と他の先生から講評してもらうというレッスンスタディの様子を紹介するオープンクラスを行った。また、2人とも口頭発表も行った。

招待者は計10人、日本以外は、タイ、オーストラリアから各2人、台湾、韓国、アメリカ、シンガポールから各1人ずつで、全体向けの講演とパネラーとしての発表を行った。開催校のコンケン大学が数学のレッスンスタディを広めていることを教育学部長のマイトリー先生が講演し、その他に理科教

育の歴史に関する講演(Prof. D.Treagust)があった。他はパネラーとして、STEM と STEAM 教育(Prof. P. Taylor, Prof. E. Reeve)、物理教育(Dr. P. Wattanakasiwich, Prof. J. Yoo)、化学教育 (Dr.K.Tan)、アイトラッキング研究(Prof. F. Yang)という多様な分野での研究成果を発表していた。また学会の前日には、招待者によるワークショップが2件行われた。興味深い講演と発表であったことに加え、それぞれの人達と交流を持てたことは大変有意義であった。

参加者間が交流できる適正な規模で、会場でのティーブレークや昼食などでは多くの参加者と交流する機会が取れる大変フレンドリーな雰囲気の学会であった。2017年の開催は、タイのプーケットとのこと。ISETは学術雑誌も発刊予定であるし、この時期のタイ行き航空券は比較的安価なので、特に国際学会での発表経験の乏しい日本の大学院生などに積極的な参加を勧めたい。



マイトリー先生の講演の様子



オープンレススンスタディの様子

(東邦大学・畑中敏伸)

### 若手ワークショップ開催案内

若手活性化委員会では今年も、講演・ワークショップ及びプレゼンテーション・マッドネスを以下の通り企画・開催します。若手研究者（研究年歴が「若い」もありです）の皆様、ぜひご参加ください。

日時 2016年8月19日 第40回年会（大分）1日目 16:15-18:45

会場 ホルトホール大分 大会議室 \*万が一変更が生じた際はお知らせします。

参加 ワークショップについての参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、プレゼンテーション・マッドネス（下記参照）発表は会員に限られます。

#### <講演・ワークショップ>

テーマ：研究の充実に向けて：学振・科研若手研究・奨励研究...どう書く申請書！

趣旨：充実した研究ライフには、その遂行を支えるいろいろな条件が整えられなければなりません。費用もその一つです。でもその「研究費」にもいろいろとある昨今、どのように申請書を書けばいいのか、どんなテーマが研究として認められるのか、正直なところを知りたい...というのが若手研究者の悩みではないでしょうか。申請する側、申請した側、それぞれの経験者のお話を伺い、実際に「どんな申請書を書けばいいのか」について話し合いながら、一緒に悩みを解決して、研究の充実、ひいては科学教育の発展に貢献しよう...が今回の企画の趣旨です。

(1) リレー講演 (60分)：「審査員はここを見る／応募者はここを押さえる」

実際に審査員を務めたことがある先生、獲得経験者に登壇いただき、審査する際の着眼点、応募する際に気をつけたこと等について実体験に基づき情報提供していただきます。参加者からの疑問などにも応えていただきます。

1. 科研審査経験者：加藤 浩（放送大学）
2. 学振特別研究員審査経験者：稲垣成哲（神戸大学）
3. 科研（奨励研究）：神山真一（神戸大学附属小学校）
4. 学振特別研究員（DC2）：福田博人（広島大学大学院 国際協力研究科）

(2) ワークショップ(60分)：「この申請書の『ここ』が悪い」

推敲前の申請書、もしくは通らなかった申請書を題材に、どこが悪いのか、どこを直すべきか、をグループ討議し、リレー講演の講師を交えてこれからに向けて考えていきます。

○ワークショップ参加申込：希望される方は、氏名、年齢（回答自由）、所属、会員種別（正会員、学

生会員、非会員)、E-mail アドレスを若手活性化委員会幹事・ワークショップ担当：江草遼平（神戸大学）126d103d[at mark]stu.kobe-u.ac.jp までお送りください。

参加申し込み締め切りは、2016年7月31日（日）です。

### <プレゼンテーション・マッドネス> 20分

趣旨：年会において発表予定の研究内容について、1人30秒という短い時間で紹介しあいます。プレゼンターにとっては自分の発表をアピールするチャンスに、また聴衆としては今後の発表を聞きに行く際の指針とするのに、ぜひ参加していただきたい企画です。

※形式：1人スライド1枚、制限時間30秒として、参加者が次々と発表を行います。いかに短く、スピーディに自分の発表内容を伝え、興味を持ってもらえるかがポイントとなります。

優秀発表者には、若手活性化委員会委員長よりプレゼンテーション・マッドネス賞が贈られます。なお、プレゼンテーション・マッドネス賞の受賞要件として、学会員かつ年齢が39歳以下である第一著者が発表することが求められます。ご了承ください。

○プレゼンテーション・マッドネス参加申し込み：年会当日に発表予定のある方で、プレゼンテーション・マッドネスに参加を希望される方は、氏名、所属、年齢（回答自由）、会員種別（正会員、学生会員、非会員）、住所、E-mail アドレス、Microsoft パワーポイントファイル（スライド1枚、動画なし）を若手活性化委員会幹事・ワークショップ担当：江草遼平（神戸大学）126d103d[at mark]stu.kobe-u.ac.jp までお送りください。

申し込み締め切りは、2016年8月7日（日）です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

## 若手ワークショップボランティアの募集

日本科学教育学会年会 若手ワークショップ（若手活性化委員会による開催）では、当日の運営を支援して下さる若手ボランティアを募集いたします。（若干名）

日時 2016年8月19日 12:00 集合～19:00 解散（予定）

業務内容 内容は次の通りです。

1. 会場設営・片付け
2. 当日受付
3. ワークショップ取材記事の執筆（Facebook 等へのリアルタイム投稿を含む）
4. 写真撮影

ご本人の希望とご都合を勘案して担当をお願いする予定です。業務終了後、業務内容等を記載したポ

ランティア活動参加証明書を若手活性化委員長名で発行いたします。

募集条件 以下の通りになります。

- ・ 8/19 のワークショップ当日に会場に来ることができる方
- ・ 若者であること（40 歳以下）

大きなことは無理でも少しだけなら、と考える方も大歓迎です。無理のない範囲で作業に従事していただくつもりですのでご安心ください。他大学の学生や若手研究者と知り合うよい機会ですので、ふるってご参加ください。

残念ながら交通費は自己負担になりますので、ご了承ください。

○ボランティア参加申込：希望される方は、氏名、所属、会員種別（正会員、学生会員、非会員）、E-mail アドレス、住所、志望動機（150 字程度）を若手活性化委員会幹事・ワークショップ担当：江草遼平（神戸大学）[126d103d \[at mark\] stu.kobe-u.ac.jp](mailto:126d103d[at mark]stu.kobe-u.ac.jp)までお送りください。

ボランティア参加者には、若手活性化委員会委員長よりボランティア参加証明書が発行されます。参加申し込み締め切りは、2016 年 7 月 31 日（日）です。

### スタートパーティ～若手研究者の集い ： 8 月 19 日（金）の夜に、語り合きましょう！

年会恒例となってきました若手の会、今年も「スタートパーティ～若手研究者の集い」を年会がスタートする 8 月 19 日（金）に実施します。

趣旨はこれまで通り、若手同士のネットワークづくりで、お互いの興味・関心や今後の展望、研究生活での苦労話などざっくばらんに語りながら、ついでにご当地のおいしいものも食べて楽しく飲もうという企画です（今年もおすすめの一軒を見つけています！）。恒例化してきましたが、参加者は毎回様々ですので、今回が初めてという方でもどうぞ気楽にご参加ください。全国の科学教育関係者が集まる年に 1 度の機会を利用して、情報交換して楽しみましょう。

年齢制限はございません。この会での「若手」とは、あくまでも「自称の若手」です。「自分はまだまだ元気だ」「自分はバリバリ活躍するぞ」という方々が、この会合の対象者です。

また学会の非会員の方も参加できます。同日に開かれるワークショップとともに、年会に参加予定の方、どうぞご参加ください。若手の会に参加したら、翌日からの年会がさらにエンjoyできるはずです。多数のみなさまの参加をお待ちしています。

✦ 日時：8 月 19 日（金）19:30～21:30

✦ 会場：「福はうち」（大分駅前）

- ✦ 参加予定人数：50人（最大人数）
- ✦ 参加費用：一人 5,000 円（予定）
- ✦ 当日企画：若手研究者の活発な交流の場となるよう、企画を用意しております。
- ✦ 参加申し込み：事前申込制です。

申し込み期間：7月1日（金）～7月31日（日）

なお、下記の点にご注意ください。

- (1) 会場手配などの都合上、下記の申込期間以外の受付は、原則としていたしません。
- (2) 申込後のキャンセルは、8月5日（金）までとします。
- (3) 8月5日以降のキャンセルや当日欠席の場合、会費を請求させて頂く場合があります。

✦ 申し込み方法

件名を「JSSE40 若手研究者の集い」としていただき、下記の申し込みフォームに記入の上 *htsuji [at mark] psy.meijigakuin.ac.jp* までお申し込みください。

-----（ここから）

【申込フォーム】

氏名：

氏名ふりがな：

所属：

メールアドレス：

-----（ここまで）

✦ 受付等担当：辻宏子（明治学院大学） *htsuji [at mark] psy.meijigakuin.ac.jp*

### 論文投稿・査読システムの移行に伴うアカウントの設定のお願い

以前よりお伝えしておりましたとおり、学会誌「科学教育研究」のオンライン論文投稿・査読システムが、2016年9月1日（予定）に新システムへ移行いたします。

現在ご利用中のシステムにつきましては、2016年9月1日以降は新規ご投稿ができなくなりますので、新システムの方にご投稿いただきますよう、お願い致します。なお審査中の論文につきましては、引き続きご利用いただけます。

新システムには、現行システムのログイン情報は引き継がれません。会員の皆様には新たなパスワードを設定していただく必要があります。以下の手順に従って、パスワードの設定をお願いいたします。

8月1日（予定）に、各会員が学会事務局に登録されたメールアドレス宛に、新システムからアカウント設定のメールが配信されます。メールを受信されましたら、別紙（別送付）の『新論文投稿・査読システムのアカウント設定の手順について』に従い、指定 URL にログインして登録情報をご確認の上、任意のパスワードの設定をお願い致します。登録情報に更新や変更の必要がある場合は、アカウント内でご変更作業をお願い致します。

アカウント設定に関わるシステム上での操作について、何かご不明な点などございましたら、下記宛にご連絡いただきますよう、よろしくお願い致します。

**【操作に関するお問い合わせ先】**

ScholarOne サポートセンター

（株）杏林舎 鳥海

E-mail: *s1-support [at mark] kyorin.co.jp*

TEL: 03-3910-4311

なお、8月1日に新システムからのメールが届かない場合には、編集事務局にご相談ください。また、事前に登録メールアドレスの変更をご希望される方は、6月末日までに学会事務局にご連絡くださるようお願い致します。

**【メールに関するお問い合わせ先】**

一般社団法人日本科学教育学会編集事務局

田中 裕史

E-mail: *jsse-hen [at mark] nacos.com*

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

※ システムの移行やメール配信の日程が変更される場合には、改めてお知らせいたします。



## 特集のお知らせ

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第41巻第2号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので、その点ご注意ください。

編集委員長 久保田 善彦

特集編集部会長 山下修一

### 記

特集名：「科学教育におけるアクティブ・ラーニング」

近年、文部科学省が推進しているアクティブ・ラーニングでは、議論や発表を行うことにより授業を活性化して、能動的に学習させることによって、認知的・倫理的・社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力を育成することが目指されている。

従来の教育では、いかに知識を理解しているかをテストやレポートで評価することがほとんどだったが、近年はアクティブ・ラーニングを通じて、汎用的能力も積極的に評価するようになってきた。仕事でも、議論できたり発表できたりすることが重要であるが、社内研修で汎用的能力を育む余裕のある企業が少なくなっている中、社会に出るまでの教育で汎用的能力を育むことが期待されている。

実際にアクティブ・ラーニングを導入すると、学習者が主体的に議論や発表に参加し、教員主導の授業よりも活性化しているように見える。しかし、知識を理解させて、汎用的能力も育成できているのか疑問が残る授業も見受けられる。

こういった状況を鑑み、本特集では、科学教育におけるアクティブ・ラーニングの動向や課題、具体例、今後の展開の可能性を示唆する論文を募集したいと考え、『科学教育におけるアクティブ・ラーニング』をテーマとすることにした。今回の特集では、次のような領域の論文を募集する。

- (1) 科学教育におけるアクティブ・ラーニングの動向や課題に関する研究
- (2) 科学教育におけるアクティブ・ラーニングの具体例を示した研究
- (3) 科学教育におけるアクティブ・ラーニングの評価に関する研究
- (4) 今後の科学教育におけるアクティブ・ラーニングに示唆を与える研究
- (5) その他

なお、特集編集部会が、上記趣旨に合わないと思われる論文につきましては、一般論文に回っていただくこともありますので、あらかじめご承知おきください。

特集編集部会の構成メンバー部会長：山下修一(千葉大学)

副部会長：土佐幸子(新潟大学)

特集編集部会委員：小川義和(国立科学博物館)、荻原 彰(三重大学)、加藤久恵(兵庫教育大学)、

北澤 武(東京学芸大学)、久保田善彦(宇都宮大学)、清水欽也(広島大学)、新田英雄(東京学芸大学)、二宮裕之(埼玉大学)、舟生日出男(創価大学)、山口悦司(神戸大学)、吉田安規良(琉球大学)など

事前申込：2016年8月31日

\* 査読プロセスを円滑に進めるため、特集はオンラインでの投稿前に「事前申込」を設けております。投稿を予定している方にはたいへんお手数ですが、著者名・所属、仮タイトル、論文種別、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所を *jsse-hen[at mark]nacos.com* までお送りください。事前申込をされないうで投稿を希望される場合は、その旨を投稿締め切り(9/30)までにご連絡ください。

投稿受付開始：2016年5月1日

投稿締め切り：2016年9月30日

\* 特集に投稿する場合は、投稿システムの1ページ目にある【概要】の第一行目に、以下の一文を加えてください。「本論文は特集(科学教育におけるアクティブ・ラーニング)への投稿である。」

発刊予定：2017年6月

## 「科学教育研究」編集状況報告

前回(2016年3月19日)以降、この間に編集理事会は開催されていないので、「科学教育研究」編集状況の報告のみとする。

1. 新規投稿論文(2016.3.1~2016.5.31): 14編(内訳:和文14編、英文0編)
2. 査読中論文(2016.5.31現在): 20編(内訳:担当編集委員選定中:2編、査読員選定中:2編、査読中(1回目):4編、総合判定中(1回目):3編、改訂稿待ち:7編、査読中(2回目):2編)
3. 掲載決定論文(2016.3.1~2016.5.31現在): 11編(内訳:研究論文9編、資料2編(通算合計40-2:8編、40-3:3編))

次回、2015年度第3回編集理事会は、2016年6月18日(土)、11:00~13:00、場所は内田洋行新川本社を予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成 28 年 5 月 31 日現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2015年 5月	1	0	22	2	1 (39-2) 5 (39-3)	0 (39-2) 0 (39-3)	0		1	0
2015年 6月	6	0	27	1	0 (39-3) 0 (39-4)	0 (39-3) 0 (39-4)	0		2	0
2015年 7月	5	0	27	1	2 (39-3) 0 (39-4)	0 (39-3) 0 (39-4)	0		2	1
2015年 8月	5	0	28	1	3 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0		1	0
2015年 9月	15	1	34	2	3 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0		4	2
2015年 10月	6	0	39	2	1 (39-4) 0 (40-1)	0 (39-4) 0 (40-1)	0		0	1
2015年 11月	5	0	36	1	4 (40-1) 0 (40-2)	1 (40-1) 0 (40-2)	0		3	1
2015年 12月	4	0	35	1	2 (40-1) 0 (40-2)	0 (40-1) 0 (40-2)	0		3	0
2016年 1月	6	0	31	1	3 (40-1) 1 (40-2)	0 (40-1) 0 (40-2)	0		5	1
2016年 2月	3	0	27	1	2 (40-2) 0 (40-3)	0 (40-2) 0 (40-3)	0		5	0
2016年 3月	8	0	22	1	5 (40-2) 0 (40-3)	0 (40-2) 0 (40-3)	0		8	0
2016年 4月	2	0	22	0	1 (40-2) 0 (40-3)	1 (40-2) 0 (40-3)	0		1	0
2016年 5月	4	0	20	0	1 (40-2) 3 (40-3)	0 (40-2) 0 (40-3)	0		2	0

### 広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 228 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：谷塚光典（信州大）	森田裕介（早稲田大）	
委員：渡邊慶子（滋賀大）	久保田善彦（宇都宮大）	鈴木 誠（北海道大）
荻原 彰（三重大）	清水美憲（筑波大）	望月俊男（専修大）
谷田親彦（広島大）	辻 宏子（明治学院大）	
幹 事：内ノ倉真吾（鹿児島大）	小松孝太郎（信州大）	

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会